

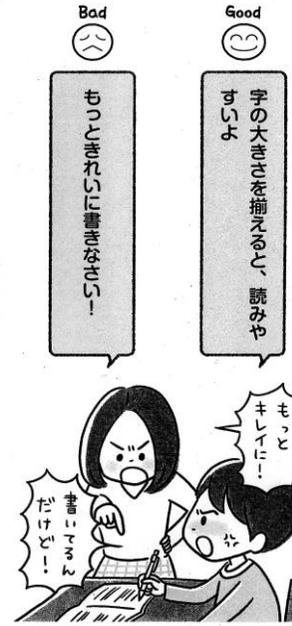
啓伸塾 便り

うづき
4月 (卯月)
April

基礎学力を重視する学習塾
啓伸塾
ただ今、新春の
新入塾生募集

勉強でいいから文字がきれい
きれいな字で、「読みやすい」の、「丁寧」な字で書くことが大切です。

子どもの成績を「伸ばす親」は「伸ばさな親」の習慣
桜井ミナール監修 安村知倫 著 あり



きれいな字を書かせるのは「一朝一夕では難しい！」
「何度言ってもなかなか直りません」と。

字のきれいさと成績には、実はそれほど相関関係はありませんが、成績に悪影響を及ぼすこともあります。

例えば、算数(数学)の筆算で書かれた「0」「1」「2」「3」「4」「5」「6」「7」「8」「9」を間違えて書いた時、それを「整った字は見ただ目で見ただけで、先生にしてお子さんの印象も悪くなるでしょう。」

特に中学生の単元テストや定期テストで、きれいな字を書いている子の答案を見ると先生の採点が甘くなる傾向があります。極端に言いますが、間違っても正解になってしまつてしまうことがあります。最高で100点満点で、約10点も得をした子もいます。それくらい、きれいな字を書く子は、先生に対し、好印象なのです。

お子様の字が汚いと、気になりませんか？

それでは、具体的な三つの解決方法を教えます。
字が汚い子の特徴の「1」は、字の大きさがバラバラです。
漢字がひらがなより少し大きめに書いてあるとバランスがよくなり、文全体も整って見えます。

もしお子さんの字が汚いなら、出来るだけ早く直していただきたいです。逆に、小さい漢字と大きいひらがなが混ざっているとバランスが悪くなり、全体がごちゃごちゃになって見えます。

4月はどの学年にとっても大切な時です。
今のやる気を忘れずに頑張ってください。

中学1年生のみなさんへ

中学は、小学校と違い、先生が、教科ごとにより変わり、先生も生徒の一面しか見ていないので、評価は、点数、提出物、授業態度など、わかりやすいものの評価になります。提出物や持ち物が「ない」のではなく「聞いていない」にならないように気を付けましょう。

小学5・6年生のみなさんへ

5・6年で習うことは、国語・算数・理科・社会・英語とも、より深くなって中学で登場します。特に、算数の「割合、百分率、速さ」の問題は、絶対理解してほしいです。これらの単元は、中学では、高校入試に必ず出題される方程式、関数で使う大切な単元です。塾の授業の復習テストで繰り返し問題演習をします。

小学2・3・4年生のみなさんへ

2年生でかけ算九九、3年生・4年生で、分数、小数のしくみを学習します。整数は、目で見て理解できることであり、普段の生活でも使うので理解しやすいですが、小数、分数は、そうはいきません。1年生から3年生までで、たし算、ひき算、かけ算、わり算を習います。これらの意味を理解することが大切です。

小学校の算数の基礎ができていないか否かで、中学校の数学の点数に大きな差が出てきます。算数は学習の中だけでなく、普段の生活の中で、保護者の方と一緒に、どんどん習ったことを使って、その真の意味を子供たちに教えてあげてください。

また、この時期に、学習習慣をつけることが重要です。宿題は毎日決まった時間に時間を十分取ってやらせて下さい。時間を決めないでやらせると早くやりたいがために雑になってしまいます。漢字は、書き順はもちろんのこと、トメ・ハネに注意して書かせるようにしましょう。

計算は速く正確に出来ることが重要です。
小学生も中学生も塾で毎回行っている百ます計算は、集中力と計算力を鍛えます。

2023年度の高校入試が始まりました

新中学3年生は、年度末に志望校の目安となる実力テストを行いました。今の学力となる点数と志望校の合格点数を、このテストの結果とともにお渡しします。
これから入試までの約1年の目標として、一緒に頑張りましょう。入試まで1年を切りました。

4月予定

4月3日(月) 新年度授業開始
5月3日(水)・4日(木)・5日(金) 例塾の授業はお休みします。
例年、連休明けに、中1・2は「課題テスト」中3は「実力テスト」があります。テスト範囲が発表されましたら、お持ち下さい。通常授業中にテスト対策も行います。
各小・中学校の年間計画表が出されましたら、是非お持ちください。

7月に、漢字検定を行います。改めて、ご案内をお渡しします。

そんなときは、漢字はひらがなより少し大きめというルールを意識してください。
さらに、漢字同士の大きさをひらがな同士の大きさとしたいと同じように、ひらがなも教えてください。美しく書く必要はないので、文字の大きさを同じにし「ひらがな」を声にかけてあげましょう。

文字の大きさに統一感が出るので、文章全体の見栄えも整って読みやすくなります。
次に、急ぐと書く「うしろ」から「文字が雑になる子」もいます。

そのように子は座るときの姿勢を直すように「アト」ハイスでください。身体が曲がると「整った字が書けません」といって、右利きなら左の手で「ひらがな」を「アト」で書く癖がある子もいます。習字のときのようになり姿勢です。

姿勢が整った「うしろ」トメ・ハネ・ハフイをしっかりと書いて「と声をかけます。自然と書ハイスに「アト」がめつるようになって、丁寧な文字になることが期待されます。
最後は、文字を書くのを面倒に「うしろ」です。「このあえす自分が読めれば」と考えているタイプです。

読めればいいと考えている子は、字が少し汚くても恥ずかしいことだと思いません。そんな子には、「おはあちゃんに手紙を書くつもりで」と声をかけてみてください。
多くの小・中学生は、自分のおじいちゃんやおばあちゃんが好きです。大好きな人に自分の字が読まれることを意識させれば、一つひとつの文字に心を込めて、できるだけきれいな字を書くようになるでしょう。
月に一度、子どもの大好きな人と文通をさせるのも、丁寧な字を習慣化する一つの方法です。おじいちゃんやおばあちゃんに「お手紙」から「手紙」は宝物になるでしょう。

このように、お子さんが文字を書く様子を見ながら声をかけてみてください。